

ふじしろ政夫 と共に県政・市政を変えよう!

発行：ふじしろ政夫と共に市政を変える会

ニュース 2010年11月号

〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50

TEL&FAX 047-445-9144

E-mail: masao.fujishiro@zc.wakwak.com

ホームページ: http://e-kamagaya.com/

一県政を市民の手に一

Q & A

「市政＝県政」という視点で、県政に挑戦する熱い思いを語る「ふじしろ政夫市議」に県政に関する課題を聞いてみました。



三番瀬の保全についてどう考えますか?

A.....

高度成長期に海が埋め立てられていく中、バブル崩壊で埋立てられずに残った三番瀬。浦安・市川・船橋・習志野沖に広がる1800haの干潟、浅海域です。2001年堂本知事が101haの埋立ての白紙撤回をしました。円卓会議、再生会議と住民参加の会議が続きましたが、ラムサール条約登録による生物多様性の豊かな自然の瀬として保存していくことが実現出来ていません。1000万人以上の人々が暮らす大都会のそばにある三番瀬は世界的にも貴重なものです。多くの生物が生息する瀬をラムサール条約登録することで持続可能な生態系ネットワークの街づくりをしていくべきです。



船取線の歩道どうしたら良くなりますか?

A.....

「歩道も狭く危険な船取線をどうにかしてほしい」多くの議員から質問要請されましたが市当局の答弁は「県によく伝えます」で終わってしまいました。県道船取線の整備は県の事業だからです。県の東葛地域整備センターで状況を聞きました。

船取線の通過車輛をバイパスへ回す事業としてバイパス道路建設をし、トレーニングセンターわきの老朽化した歩道の修理などは個別に対応しているとのこと。週1回のパトロール車での調査、年1回の歩行による調査をしているとのこと。現在の船取線そのものの歩道の設置等については計画がないとのこと。道路行政の在り方を、単に車輛の通過処理から、



生活する住民の道路環境の向上・改善に変えていく必要があると県政の中で議論すべきです。県と市の「調整会議」があるとのことですが、地元住民の声を十分県政・県議会へ通していく仕組みが必要です。

2兆6千億円の借金体質をどう変えますか?

A.....

来年度の県の予算組が始まっていますが、220億円の財源不足が見込まれています。借金も2兆6000億円。「行政評価」「事業仕分け」でムダのカットはすぐにも実行しなければなりません。更に、この間の不正経理35億円～40億円を生み出した体質、未完成工事を完成したかのごとき不正処理で国からの補助金がなくなってしまうような、県庁内の仕事への姿勢をも改善しなければなりません。又、天下り先の第三セクター、外郭団体の見直しも必要です。「公」として行なわなければならない事業を明らかにし、助け合い、分ち合いの社会をつくっていく為の「公共サービス」の確立が必要です。

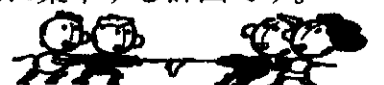


かずさアカデミアパーク

皆様のご意見を市へおとどけてください

後期基本計画第1次実施計画案

平成23年度から始まる後期基本計画、前半5年間の実施計画案が出されました。10月15日～11月15日の間市民の声を聞く、パブリックコメントが実施されています。新規36事業を含めて5年間で156億5900万円。梨剪定枝堆肥化事業・プレミアム商品券・総合福祉保健センター改修事業・民間保育所整備・インターネット議会中継事業など ①安全安心(安全に暮らせる社会システム)②福祉(誰もが健康に暮らせる)③教育(人間性豊かな子供の育成環境)④魅力ある街づくりの4つの重点政策に集中する計画です。



これからの介護のかたち

~~~~心地よい老後をめざして~~~~

「あなた、幸せですか？」と問われ満足度世界1位はデンマーク。日本は90位、経済力はどちらかと言えば日本の方が上と言われているのに…。高齢社会を迎えようとしている日本のこれからの介護のあり様が議論されました。



大熊由紀子さんは、福祉社会になると人は怠け者になる・福祉が進んだスウェーデンは自殺者数が世界一・重税を避けて人が逃げていく、といった三大デマの誤りを事実にして示しました。そして、寝かせきり老人をつくり出しているのは日本だけで、デンマークなど福祉国家には居ないと現状変革の必要性を訴えました。

デンマークで活動している千葉さんは、デンマークの福祉の状況を『連帯』をキーワードに語り、生きがいのある人生を送るには可能な限り在宅で①生活の継続性②自己決定③自己資源の活用を実現していくことと指摘しました。世界一幸せと思っているデンマーク人の85%が「今の税金を払っても今の公共サービスを」と共生と連帯の大切さを主張していると説明しました。

母を7年間介護した落合恵子さんは、一人の人間としてトータルに対応する介護でありたいと。個人の自立と連帯で「個人の尊厳を大切に作る社会＝長生きして良かったと頷ける社会」をつくらせていきたい、その為にも今の政治に異議申し立てをそれぞれの人がすべきだと訴えました。介護に苦しむ人がその苦しみを自分の手で蓋をしてしまうような状況からどう抜け出せるのか？私たちの側に政治を引き戻す必要性も主張しました。



在宅ケアの診療を続けている新田さんは、病院中心の医療から、地域の中で生活の質を良くしていく医療への転換の必要性を主張しました。「病院は完璧に病気を治すところ、病院に入れば安心」と国民に思わせてしまっている現状を変えなければ…とも語りました。

特に認知症は、医療でなく見守りの世界であること、それ故これからの医療は在宅ケアです。と今後の介護・医療の方向性を示しました。最後に落合恵子さんが語った「私のシワは成長のしるし」「古い、障がいは個人が責任をもつものではない、片方の肩を貸し合う社会を」の中に、これからの介護の姿がある様な気がしました。



## 手賀沼フォーラム



## コウノトリと人が共生する街づくり

手賀沼流域は、我孫子・流山・柏・松戸・鎌ヶ谷・白井・印西の7市に係わります。手賀沼の水質はワースト日本一という不名誉なことが続きましたが、今では少し良くなり8位。魚や鳥が戻ってきています。手賀沼に注ぐ大津川最上流の鎌ヶ谷市は、生活雑排水でその一滴目から水質が悪すぎます。水質浄化は市としての責任です。

フォーラムではコウノトリを復活させた豊岡市での活動を佐竹節夫さんに話してもらいました。

『1960年代にはコウノトリと農家の人々が同じ田んぼの中で生活していた、その状況へ戻す為に来ることは？』という形でコウノトリ復活プロジェクトを始めたとのことです。川と田のフラットな状況から圃場整備で乾田化、水路の段差化、農薬と化学肥料で一羽一羽と亡くしてしまったのが絶滅への過程。その逆の道を模索。コウノトリは1日1kgのえさを飲み込む大食漢、このえさを確保する分厚い環境、生物多様性の自然環境を再生していくことの必要性が指摘されました。

生き物と共生する街づくりを進めていきましょう！



応援します

## ガンバレ！ふじしろ政夫

★常に問題意識と情熱をもって行動する人。市民の立場から県政と市政の架け橋としての活躍を期待できる人。今までに存在しなかったような県会議員を鎌ヶ谷のために誕生させたいとの思いから、私たちは応援しています。ふじしろ政夫と共に市政を変える会

会長 田中幹雄

★問題を市民に投げかけ市民の思いを受け止めて提言していく、真の市民自治実現していく議員として「ふじしろ政夫さん」ほど適任の人はいない。2期8年の市議としての活動がそれを証明している。さらに広い舞台での一層の活躍を期待したい。

東中沢 渡辺俊彦

## お知らせ

◇自主講座 市民自治「事業仕分けと市民自治」

中央公民館 講師：福嶋浩彦さん

11月28日(日) 13:30～ 資料代500円

◇法律弁護士無料相談 要予約：ふじしろ市議まで

11月27日(土) 13:00～

◇暮楽会 毎週金曜日 13:00～

